

『万葉古代学研究所彙報』

平成十八年度

一月 六日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン

(国際奈良学セミナーハウス)で、松尾光副所長兼総括
研究員(以下、副所長と略す)が「大和三山の男女」
と題して講演。

一月 七日・八日 万葉古代学研究所第二回主宰共同研究「古代

儀礼と万葉集」の第十一回・第十二回共同研究会を開
催。共同研究員は、寺川眞知夫所長・上野誠副所長・
松尾光副所長・井上さやか主任研究員(以下、研究員
と略す)・西地貴子研究員、鎌田東二京都造形芸術大
学教授・嶋田義仁名古屋大学大学院教授・高橋孝信東
京大学教授・辰巳正明國學院大学教授・松田信彦鹿尼
島工業高等専門学校助教授。研究会は、高橋孝信東京
大学教授が「タミル文学のジャンル分け」の発表のあ
と、二カ年の研究の総括討議を行う。

一月 二五日 奈良県立万葉文化館友の会(以下、友の会と略す)

と共催の「万葉文化をよむ」で、寺川眞知夫所長が
「古事記をよむ／崇神天皇②建波邇安王の叛逆」を講
義。

一月 二二日 NHK奈良「ならナビ」に井上さやか研究員が出演。

一月 二三日 孫立春海外研修員・井上さやか研究員が、奈良県庁
における研修成果発表会に出席。孫研修員が成果を發
表。

一月 二六日 孫立春海外研修員が離任し、中国に帰国。

二月 八日 明日香村聖徳中学校において、井上さやか研究員が
実験授業を行う。

二月 一九日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、寺川眞知夫所
長が「古事記をよむ／垂仁天皇①沙本毘古王の叛逆」
を講義。

二月 二四日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤ
マトの信仰的世界観の総合的研究―二上山周辺地域を
視座として―」(代表・大石泰夫盛岡大学教授)の第
六回共同研究会を東洋大学で開催。

三月 一日 第二十六回関西笑裡会で、井上さやか研究員が「万
葉集の魅力」(大阪)を講演。

三月 三日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン
(国際奈良学セミナーハウス)で、松尾光副所長が「大
津皇子の悲劇」と題して講演。

三月 三日・四日 ボランティア新年度研修で、井上さやか研究
員・西地貴子研究員が講師を務める。

三月 九日 奈良県庁土木課の一三〇〇年記念事業勉強会において、井上さやか研究員が「万葉集から見た古代の交通―奈良時代の都・道・川―」を講義。

三月一〇日 奈良テレビ放送主催の「平城京ウォーキングイベント」で、松尾光副所長が解説講師を務める。

三月一九日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、寺川真知夫所長が「古事記をよむ／垂仁天皇②本牟智和氣王」を講義。

三月二五日 「万葉古代学研究所年報」五号を発行。

三月三一日 西地貴子研究員が退任。

平成十九年度

四月 一日 大館真晴氏が主任研究員（以下、研究員と略す）として着任。

四月 四日 全国歴史研究会の「万葉古代塾」の第六講として、松尾光副所長が「長屋王は仏教の敵か味方か」を講演。

四月一〇日～七月一〇日 松尾光副所長が川崎市民生涯学習財団・かわさき市民アカデミーで「日本古代史の謎を斬る！」を六回講演。

四月二一日～二二日 全国歴史研究会の「〈第五回旅行会〉生駒山麓周辺の旅」の実施にあたり、松尾光副所長が添乗

講師を務める。

四月二三日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「基礎講座／万葉歌の環境①飛鳥古京」を講義。

五月二二日～二三日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―上山周辺地域を視座として―」（代表・大石泰夫盛岡大学教授）の実地調査および第七回・第八回共同研究会を開催。

奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、井上さやか研究員が「万葉びとの恋愛模様」を講演。

五月二三日 友の会主催「万葉らくらく再発見」の「第一回プログラム・オリエンテーション明日香散歩」を実施。松尾光副所長・井上さやか研究員が、近鉄飛鳥駅から国立飛鳥資料館までを適宜解説しながら案内。

五月二二日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「基礎講座／万葉歌の環境②藤原京」を講義。

五月二二日・二四日 JR西日本主催のジパングクラブ講座において、井上さやか研究員が「万葉びとのくらし拝見」を講演。

五月二六日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」

(代表・真下厚立命館大学教授)の第一回共同研究会を開催。

奈良県立図書情報館主催の「図書館劇場Ⅱ・第一幕―飛鳥と吉野―」において、井上さやか研究員が「万葉集の中の吉野」を講演。

五月二七日 東京代官山の奈良県iスタジオにおいて、第一回万葉古代学講座を開催。井上さやか研究員が「イメージの連鎖―万葉歌の発想と表現―」と題して講演。参加者は、四一名。

六月 三日 東京代官山の奈良県iスタジオにおいて、第二回万葉古代学講座を開催。松尾光副所長が「二人の女帝の謎を解く―元正と孝謙―」と題して講演。参加者は五八名。

全国大学国語国文学会夏季大会(二松学舎大学)において、井上さやか研究員が「山部赤人のいわゆる叙景―近代的評価からの脱出―」を発表。

六月 九日 東アジア比較文化国際会議日本支部大会(京都女子大学)において、井上さやか研究員が「東アジアにおける赤人―家の花をめぐる―」を発表。

六月一五日 奈良県立大学平城遷都一三〇〇年記念講座において、井上さやか研究員が「万葉集に見る平城京」を講演。

六月一七日 東京代官山の奈良県iスタジオにおいて、第三回万葉古代学講座を開催。上野誠副所長が「自然神と古代―万葉びととの対話―」と題して講演。参加者は、六四名。

六月一八日 奈良テレビ放送文化スタジオ・こころ大学で、松尾光副所長が「持続のこころ・元明のこころ」を講演。
六月二二日 奈良県立大学平城遷都一三〇〇年記念講座において、井上さやか研究員が「奈良の万葉歌」を講演。

六月二四日 産経新聞夕刊奈良版での「万葉集とあそぶ」連載一〇〇回を記念して、奈良県立万葉文化館企画展示室で産経新聞社主催のフォーラムを開催。中西進館長が「万葉の風景」と題した基調講演をし、上野誠副所長の司会により寺川眞知夫所長・井上さやか研究員・烏頭尾精京都教育大学名誉教授がシンポジウムを催す。

六月二五日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「基礎講座／万葉歌の環境③奈良の都」を講義。
七月 七日 奈良県小中学校退職女性管理職の会「和の会」総会で、松尾光副所長が「大化改新の表と裏」を講演。

奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン(国際奈良学セミナーハウス)で、大館真晴研究員が「親を思う歌」を講演。

七月二四日 友の会主催「万葉らくらく再発見」の「第三回プログラム・万葉文化館を楽しむ」で、井上さやか研究員が館内を案内。

七月二五日 第二十二回万葉古代学研究所講座として、寺川真知夫所長が「淳名川の底なる玉」を講演。参加者は、四六名。

中国海洋大学日本語文学部助教の王華氏が、平成十九年度万葉古代学研究所海外研修員として着任。

七月二一日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」（代表・真下厚立命館大学教授）の第二回共同研究会を開催。

七月二二日 第二十三回万葉古代学研究所講座として、大館真晴研究員が「『日本書紀』の歌物語」を講演。参加者は、四八名。

七月二三日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「基礎講座／万葉歌の環境④大宰府」を講義。

七月二八日 夏休み子ども万葉教室の講師を、大館真晴研究員が務める。

大神社主催の三輪山セミナーで、井上さやか研究員が「万葉集における三輪山―聖山描写の日中比較をとおして―」を講演。

七月二九日 第二十四回万葉古代学研究所講座として、上野誠副所長が「糸作りの万葉古代学」を講演。参加者は、六〇名。

夏休み子ども万葉教室の講師を、井上さやか研究員が務める。

國學院大學伝統文化に学ぶ講座（生国魂神社参集殿）で、大館真晴研究員が「古事記の結婚」と題して講演。

八月 五日 第二十五回万葉古代学研究所講座として、井上さやか研究員が「万葉悲恋の美学」を講演。参加者は、五〇名。

八月 九日 夏休み子ども万葉教室の講師を、大館真晴研究員が務める。

八月一〇日 夏休み子ども万葉教室の講師を、松尾光副所長が務める。

八月一二日 第二十六回万葉古代学研究所講座として、松尾光副所長が「鎌足は安見児を得たか」を講演。参加者は、六〇名。

八月一八日 姫路文学館友の会講座で、松尾光副所長が「天智天皇から天武天皇へ」を講演。

八月二〇日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「基礎講座／万葉歌の環境⑤越中国府」を講義。

八月二三日～二四日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―二上山周辺地域を視座として―」（代表・大石泰夫盛岡大学教授）の実地調査および第九回・第一〇回共同研究会を開催。

八月二五日～二七日 奈良女子大学と共催で、第六回万葉古代学研究所夏期セミナー／奈良女子大学二十一世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」（若手研究者支援プログラム）として「戦後万葉学のみゆみ」を実施。一日目の第一講は阿蘇瑞枝（元日本女子大学教授）「憶良と旅人」、第二講は橋本達雄（専修大学名誉教授）「萬葉集巻一、巻二の成立について」。二日目の第三講は稲岡耕二（東京大学名誉教授）「古代における『新しき詩歌の時』―人麻呂と憶良―」、第四講は木下正俊（関西大学名誉教授）「古写本の孤立異本」があり、毛利正守（武庫川女子大学教授）・内田賢徳（京都大学大学院教授）がコメントを付した。三日目は大神神社から齋宮歴史博物館までのバス見学会を実施。参加者は、四〇名。

九月一日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、松尾光副所長が「元

明女帝の不安」を講演。

九月八日 飛鳥保存財団主催のあすか塾で、井上さやか研究員が「幻想の風景―万葉集のなかの飛鳥―」を講演。

九月九日 上代文学会九月例会で、大館真晴研究員が「日本武尊の東征にみる『徳』と題して研究発表。

九月一〇日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、松尾光副所長が「木簡をよむ／稲と木簡」を講義。

九月一四日 田原本町生涯学習課主催の平成十九年度第六回郷土学習教室（田原本青垣生涯学習センター）で、松尾光副所長が「遣唐使の憂鬱」と題して講演。

九月二二日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」（代表・真下厚立命館大学教授）の第三回共同研究会を開催。

一〇月七日 第二回主宰共同研究「古代儀礼と万葉集」の研究成果発表として、第四回万葉古代学研究所共同研究公開シンポジウム「うたといのり―万葉集と世界の文学―」を開催。第一講は寺川眞知夫所長が「総論・古代儀礼と万葉集」、第二講は辰巳正明國學院大學教授が「東アジアの大歌から考える」、第三講は高橋孝信東京大学教授が「南インドの祈禱文学から考える」、第四講は嶋田義仁名古屋大学大学院教授が「西アフリカの音

楽から考える」、第五講は鎌田東二京都造形芸術大学教授が「聖地の宗教学から考える」と題してそれぞれ講演し、その後、上野誠副所長の司会でシンポジウムを催す。参加者は、六九名。

一〇月二二日 日本博物館協会近畿支部第十七期後期支部研修会で松尾光副所長が「『万葉集』と古代史」と題して講演。

一〇月二五日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、松尾光副所長が「木簡をよむ／税と木簡」を講義。

一〇月二九日・三〇日 智辯学園奈良カレッジ中学部において、古代学実験授業を実施。井上さやか研究員が講師を務め「『万葉集』とは何か」「和歌の世界」を講演。

十一月三日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、井上さやか研究員が「古代詩歌にみる国際交流」を講演。

十一月二〇日 中京大学国文学会秋季大会で、井上さやか研究員が「万葉歌と絵画」と題して研究発表。

十一月二一日 美夫君志会十一月例会で、井上さやか研究員が「書と絵」と題して発表。

十一月二九日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究員が「万葉集をよむ／古代の伝承と歌①水江浦島子の物語」を講義。

十一月二三日 第六回奈良県立万葉文化館ボランティア研修会で、松尾光副所長が「万葉集を歴史から読む」と題して講演。

十一月二四日 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」（代表・真下厚立命館大学教授）の第四回共同研究会を開催。

奈良県主催の藤原京ルネッサンスカルチャー・ウォークで、井上さやか研究員が「万葉歌に誘われて」（明日香村）の引率講師を務める。

十二月 四日 奈良芸術短期大学の明日香学講座（教養科目）で、井上さやか研究員が「明日香と万葉」を題して講演。

十二月 八日 第五十八回友の会講座で、王華海外研修員が「中国における万葉集の研究について」と題して講演。

上代文学会十二月例会で、井上さやか研究員が「神女への恋―和歌における文人志向―」と題して研究発表。

十二月 九日 第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の実施について、審議会を開催。

十二月二七日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究員が「万葉集をよむ／古代の伝承と歌②松浦佐用姫の物語」を講義。

一月五日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―二上山周辺地域を視座として―」（代表・大石泰夫盛岡大学教授）の実地調査および第十一回共同研究会を開催。

一月二五日 奈良芸術短期大学の明日香学講座（教養科目）で、井上さやか研究員が「明日香と万葉2」と題して講演。

一月一九日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン（国際奈良学セミナーハウス）で、大館真晴研究員が「忠臣・大三轮高市麻呂」を講演。

一月二二日 友の会共催の「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究員が「万葉集をよむ／古代の伝承と歌③神功皇后と鎮懐石の物語」を講義。

王華海外研修員・井上さやか研究員が、奈良県庁における研修成果発表会に出席。王研修員が成果を発表。

一月三〇日 王華海外研修員が中国に帰国。

◆専任研究員のおもな業績（平成十九年二月～平成二十年一月）

松尾光

〔共著〕

○『教科書が教えない日本史のカラクリ』（新人物往来社刊。「厩戸皇子の立太子」を収録）、平成十九年四月。

○『歴史の「その後」・日本史追跡調査』（新人物往来社刊。「古代①～⑤」を収録）、平成十九年七月。

〔研究論文〕

○「万葉八九四番歌の言霊について」（『万葉古代学研究所年報』五号）、平成十九年三月。

○「稲城について」（『朱』五十号）、平成十九年三月。

○「古代鳥形製品の文献学」（山岸良一・相山林継編『原始・古代日本の祭祀』所収、同成社刊）、平成十九年七月。

〔その他〕

○「阿倍内親王の立太子」（『礫』二五〇号）、平成十九年八月

○「天皇と皇子／古代総論・穴穂部皇子・山背大兄王・古人大兄皇子・有間皇子」（『月刊歴史読本』五十二巻十一号）、平成十九年十月。

○「東国国司は何を見ていたのか」（『歴研よこはま（悠久）』二十五周年記念号）、平成十九年十一月。

○『日本書紀』を読み解くⅡ／皇極天皇・孝徳天皇」（『月刊歴史読本』五十二巻十三号）、平成十九年十二月。

○「四字年号の採用とその経緯」（『月刊歴史読本』五十三巻一号）平成二十年一月。

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」、平成十九年三月六月。

○「図書・情報室のジレンマ」（『万葉図書・情報室だより』十九号）、平成十九年十一月。

井上さやか

〔研究論文〕

○「『春草』とハルクサー季名を冠する物色の倭製」（『万葉古代学研究所年報』五号）、平成十九年三月。

○「大伴家持が捉えた赤人―『詠春鶯歌』をめぐって―」（『中京大学文学部紀要』四十一巻特別号）、平成十九年三月。

○「恋歌の小道具・アイテム10」（『国文学』五十二巻十四号）、平成十九年十一月。

〔研究発表〕

○「山部赤人のいわゆる叙景―近代的評価からの脱出―」（全国大学国語国文学会夏季大会）、平成十九年六月。

○「東アジアにおける赤人―家の花をめぐって―」（東アジア比

較文化国際会議日本支部大会)、平成十九年六月。

○「万葉歌と絵画」(中京大学国文学会秋季大会)、平成十九年十一月。

○「書と絵と」(美夫君志会十一月例会)平成十九年十一月。

○「神女への恋―和歌における文人志向―」(上代文学会十二月例会)、平成十九年十二月。

〔その他〕

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」、平成十九年三月・六月。

○「はじめて学ぶ人のための万葉集ブックガイド」(「明日香風」一〇二号)、平成十九年四月。

○「万葉歌の魅力を探る⑩／書と絵と歌」(「天飛ぶ」十八号)、平成十九年七月。

○「天皇と皇子／大津皇子・高市皇子」(「月刊歴史読本」五十二卷十一号)、平成十九年十月。

○「新刊紹介／佐佐木幸綱氏著『万葉集のへわれ』」(「美夫君志」七十五号)、平成十九年十一月

西地 貴子(平成十九年三月三十一日退任)

〔研究論文〕

○「『行巻』としての万葉集―平城京の官僚社会と文学の相关性

について―」(「万葉古代学研究所年報」五号)、平成十九年三月。

〔その他〕

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」番外編、平成十九年二月・六月。

○「万葉歌の魅力を探る⑨／桜花の象」(「天飛ぶ」十七号)、平成十九年三月。

大館 真晴(平成十九年四月一日着任)

〔研究論文〕

○「三條西家本播磨国風土記の字体をいかに理解するか―木簡や正倉院文書との比較から―」(『上代文学研究叢書 風土記の表現』笠間書院刊)、平成二十年一月。

〔研究発表〕

○「日本武尊の東征にみる『徳』」(上代文学会九月例会)、平成十九年九月。

〔その他〕

○「天皇と皇子／菟道稚郎子皇子・市辺押磐皇子・木梨輕皇子・押坂彦人大兄皇子」(「月刊歴史読本」五十二卷十一号)、平成十九年十月。

○「『日本書紀』と『古事記』の比較に関する論考／『日本書紀』

にみる神功皇后の新羅平定伝承」〔月刊歴史読本〕五十二巻十三号)、平成十九年十二月。

○「特別資料／『日本書紀』の神系譜」〔月刊歴史読本〕五十二巻十三号)、平成十九年十二月。

○「万葉歌の魅力を探る⑩／地名からの連想」〔天飛ぶ〕十九号)、平成十九年十一月。